

はじめに

(本書の使い方)

本書は、看護職を養成する4年制大学の看護学部、医学部看護学科、保健学科看護学専攻コース等々（これらを、便宜上「看護系学部」と総称しておく）の入学試験で課される「小論文」への対策を目的に書かれた、問題集型の参考書である。

看護系学部の小論文は、なかなかに難しくて複雑だ。実態を知らずに「作文に近い簡単な文章試験だろうから、準備は間際でいい」などと勘違いしたまま放っておくと、直前になって途方に暮れることになる。

しかし、この本を手に取ってみたような人なら、きっと既に不安を感じ、早めに準備を始めようと考えていることだろう。そう、それが正解だ。看護系学部の小論文とは、どのような試験で、どんな対策をすればよいのか——まずは、本書をじっくり読んで、学びとってほしい。長年、河合塾の授業や模試、テキスト作成に関わってきたベテラン講師の3人が、やさしく手ほどきしよう。

ただ、いくら易しく、わかりやすく書いたつもりでも、もともと看護系学部の小論文は上にも述べたように、なかなかに難しいものだ。そこで求められている学力、知識、思考力、表現力などのハードルは極めて高い。出題する大学側によって、意図的に高く設定されているようだ。それだけに、必要なことを十分に解説しようとすれば、その内容は、未学習の受験生には難しく見えるかもしれない。それが受験の実態なのだから、意欲と覚悟を持ち、積極的な姿勢で読み進んではほしい。

第Ⅰ部「正しい小論文対策に向けて」では、そもそも看護系学部の小論文とはどんな試験なのか？ 対策の第一歩として、何を知っておけばよいのか？ といったことを概説する。

第Ⅱ部「小論文問題演習」では、看護系学部でよく出題されるテーマと出題形式に即して、12題の練習問題を選び、解法を解説する。基本的に、これまでに実際に出された入試問題を選んだが、設問文や解答字数などを練習問題として適正なものに変えたものもある。また、本書のために新たに作成した問題もある。

12題の問題演習（第1～12講）は、それぞれ、「問題を解く前に」「練習問題」「課題文（資料）解説」「設問解説」「解答例」から成る一連の講義である。

特に本書を特徴づけるのは「問題を解く前に」だろう。与えられた問題を無計画に、場当たり的に解いてみても、大きな学習効果は得られないものだ。なぜそのようなテーマや出題形式の問題が出題されるのか？ 対策として何を知り、どんな姿勢で問題に取り組むべきなのか？ 必要最小限の事柄を解説する。予めしっかりと読んで（予習して）、練習問題に挑んでみてほしい。成果は倍増するはずだ。

「解答例」は、すべて、実際の大学入試で最も多用されている、1行が25字の横書き解答用紙を想定して書かれている。段落の分け方、句読点の位置（行頭には置かない）、数字やアルファベットの記し方（算用数字や小文字アルファベットは、2字で1字分として数える等）、原稿用紙の使い方の参考にもしてほしい。

また、解答例には、欄横（右側）に「設問解説」に対応する解答のポイントを簡潔に記してある。

改めて「設問解説」を参照することで、解答例を十分に理解し、参考にしてほしい。

12の講座は、

- * 直接に「看護」に関わるテーマでの文章問題（第1～4講）
- * 人文社会系のテーマでの文章問題（第5～7講）
- * 図表問題（第8講）
- * 「科学論」と呼ばれるジャンルの文章問題（第9講）
- * 理科論述問題（第10講）
- * 英文問題（第11・12講）

に分類される。しかし、分類されるとあっても、それらは有機的につながっており、全体を通してはじめて、看護系学部の小論文についての理解が得られ、また、各講の理解が深まるように構成されている。

実際の入試では、大学ごとに出題テーマ、出題形式の傾向が異なっており、ある特定の大学で、上記のすべてのタイプの問題が出題されることはまずない。しかし、だからといって、自分の志望大学の傾向に合うものだけを選んで練習する、という方法では、「看護系学部の小論文」の全体像を捉えられず、その結果、選んだ問題の特色を捉えきれずに、不十分な成果しか得られないことになるだろう。まずは、12講を通読し、理解した上で、志望大学の傾向に焦点を合わせ、さらなる対策に進んでほしい。

逆の視点から言えば、本書は「これ1冊を読むだけで入試対策は万全」というようなまやかしの本ではない。むしろ、対策の出発点、基盤を万全にしてさらに進むためのステップとして活用してほしい。

〈執筆分担〉

鶴田博之……第I部、第II部第1～4講、第8講

高尾智士……第II部第5～7講

加賀健司……第II部第9～12講

CONTENTS

はじめに	2
------------	---

第Ⅰ部 正しい小論文対策に向けて

chapter 1 看護系学部の小論文とは？	6
chapter 2 対策の第一歩として：まず知っておきたいこと	10

第Ⅱ部 小論文問題演習

第1講 ケア原論：「ケア」とはどういうものか？	16
第2講 看護論：看護の仕事	25
第3講 看護の最前線1：末期患者のケア	36
第4講 看護の最前線2：在宅ケア	50
第5講 人文社会系テーマ1：コミュニケーション論	60
第6講 人文社会系テーマ2：ネット社会	70
第7講 人文社会系テーマ3：家族のあり方	80
第8講 図表読解：救急出動と搬送	89
第9講 科学論：「科学」とはどういうものか？	102
第10講 理科論述：実験・観察データに基づく考察	112
第11講 英文読解1：医学・医療分野の英文	124
第12講 英文読解2：科学分野の英文	134

chapter

1

看護系学部の小論文とは？



■ 「小論文」は多種多様

大学入試で課される「小論文」試験について、多くの受験生が誤解・勘違いをしている。「小論文」とは、何かしら時事的なテーマについて自分の意見を述べたり、誰かの書いた文章に賛否の意見を述べたりするもので、「作文」とは違う、もっと硬めで難しげなものを書く「文章の試験」である、というのがその典型だ。だから、何よりもまず「文章の書き方を教えてほしい！」「論文は、どういう構成で、どんな言葉を使って書けばよいのか？」と質問に来る受験生があまりにも多い。

しかし、実際の入試問題を見てみよう。この本には看護系学部の入試に出た問題が集められているから、とりあえず、それだけを見てもわかるはずだ。確かに「自分の意見を書け」という問題も多いのだが、英文を「訳せ」という問もある。文章を「要約せよ」、その一部を「説明せよ」という問もあれば、理科のような問題もある。図表（グラフや表）から「わかることを記せ」という設問もある。この本には掲載していないが、かつてある大学で、全問ともマークで答える「小論文」試験が課されたこともある。

このように多様な問題が、いずれも「小論文」という名称で課されているのだから、多くの受験生は戸惑うはずだ。「小論文」とは何なのか？ どう対策すればよいのか？ わからなくなって、せめてまず「文章の書き方を！」という質問になるのかもしれない。しかし、形だけの「文章の書き方」（だけ）を覚えて、実際の小論文試験には太刀打ちできないことは明らかだ。

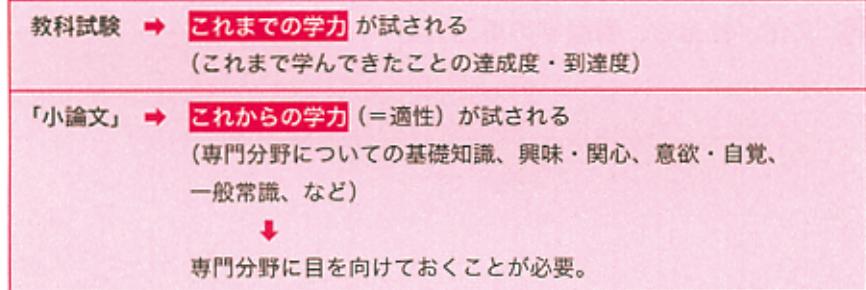
大学入試の「小論文」とは、一言では括れない、多様な問題群なのである。一定のジャンルで一定のルールを持った、1つの教科では決してない。世間で何となく想定されている「論文」ともまた違う。要するに「何でもあり」の試験だ。正しく対策するためには、まず入試「小論文」のこの実態を知り、十分に理解して挑むことが必要だ。

■ 「小論文」は「専門入門試験」

とはいって、多様な「小論文」にも、一定の傾向・方向性といったものが確かにいる。ここで、試験の形ではなく、内容に目を向けてみよう。法学部の「小論文」には、人権や法のあり方・解釈などをめぐる問題が多い。経済学部では経済や国際社会に関する内容のものが、文学部では歴史や思想、作品解釈についての問題が、理系の学部では科学実験結果の解釈や実験構想を求める問題が、そして医学部や看護学部など医系の学部では、医学・医療に関する問題が頻出

する。いずれも、受験生がこれまで（高校まで）に学習したことのないはずの事柄について、高いレベルでの読解力、思考力、表現力を要求するものだ。入試「小論文」とは、いわば「専門入門試験」なのである。この点に、「小論文」の、（他の）教科試験とは異なる、はっきりした特徴がある。

数学や国語、理科といった教科試験が、これまで（高校卒業まで）に学んできた事柄の達成度・到達度を試す学力試験であるとすれば、「小論文」は、これから当該の学部で学んでいくための応用力を試す専門入門試験なのである。前者は、いわば「これまでの学力」を試すもの、後者は、格好良く言えば「これから学力」を試すものだと見える。ただ、この「からの学力」にはさまざまなものがある。学部の専門分野についての基礎知識、興味・関心、それを学ぶ意欲と自覚、学ぶための基礎学力、一般常識、読解力、表現力、分野の諸問題についての一定の見識……等々。「小論文」は、これら多様な能力・学力（一言で言えば、適性）の一部を、各大学の各学部・学科がそれぞれに工夫してあの手この手で試そうとする試験なのである。この点を理解し、入学後の専門の世界を多少なりとも知っておくことが、大学入試「小論文」対策の第一歩である。



■ 看護系学部「小論文」の特徴

特に看護系学部の「小論文」では、上に述べたような専門特化傾向が著しい。学部を選ぶことが、将来の職業選択にも直結しており、志望の目的が（他学部と比べても）はっきりしているからだろう。看護学生、さらには看護職としての適性を見極め、評価して選抜しようという意図が明らかだ。

よく出題されるテーマや内容には、次のようなものがある。

① 医療・看護に関する文章に基づく読解・論述問題

ケア、健康、医療（や看護）のあり方、障害、老い、医療倫理などについて問題提起をした文章を読ませ、要約・説明や見解論述をさせる問題。

② 文化・社会に関する文章に基づく読解・論述問題

人間関係、自己と他者、コミュニケーション、言葉、家族、教育など、人文科学のジャンルに属するテーマについて書かれた文章を読ませ、要約・説明や見解論述をさせる問題。